

2010年7月18日(日)
2010年度 JLA 中堅職員ステップアップ研修
領域：情報サービス

テーマ：情報技術と図書館

講師：逸村 裕(いつむら ひろし)
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 教授
情報学群 知識情報・図書館学類
筑波大学附属図書館 副館長
筑波大学附属図書館 研究開発室 室長

内容

デジタル図書館、電子出版、オンライン商用 DB 等の実状を確認するとともに、インターネット環境のもとでの図書館サービスの可能性を学ぶ

1.はじめに

公共図書館の支配的イメージは、本を借りたり、新聞・雑誌記事を探したりするところ、あるいは勉強場所として自学自習をするところというものである。このイメージは図書館業務が定型化したものというイメージへとつながり、更に昨今の自治体の財政難に起因する行政職員の定数減の圧力や図書館業務の外部委託に安易に結び付く傾向がある。つまり、民でできることは民へ、或いは単純業務の移管による行政のスリム化という流れは社会的要請を受けたものであり、このこと自体は公共図書館の運営やサービスの効率化に寄与するものであり、否定的に捉えるべきではない。しかし、このことが現状ではイメージの薄い、専門性の高いサービスの欠落に結びつきやすい点は問題であり、知的財産立国という社会的要請を損なうものである。

また、今まで行ってきたレファレンスサービスをはじめとしたサービスを地道に来館者に行っても、公共図書館利用者のニーズは十分果たせるという反論もあるかもしれない。しかし、公共図書館利用の実態は、利用頻度の高い少数の住民と、利用のまったくない多数の住民に二極化していることは否めず、今のままのサービスの延長線上には利用状況の変化は見込めない。こうした状況はやはり、全般的なサービス削減圧力へと結びつきやすい。

今必要なのは、これまで公共図書館に無縁だった住民、団体等に公共図書館の機能を利用してもらうことであり、それには公共図書館で何ができるかを具体的に提案していく姿勢が不可欠である。誰もが生きていく上で課題を抱えており、またどの組織も取組課題を抱えており、その課題解決を具体的に提案していく課題解決型図書館、或いは企画提案型図書館となることが現在の公共図書館に求められている。多くの公共図書館で先行実施されつつあるビジネス支援についてはその成果が現れつつある。今提供しているサービスに安住せず、各館で取組課題候補を参考にしながら、独創的な企画を主体的に立て、社会に公共図書館をアピールし、サービスの革新を持続的に行っていく企画力が今の公共図書館に求められる。1) 2)

2.情報技術とは

事前課題

皆さんの勤務する図書館で活用している「情報技術」について一覧を作成してください

(1) ICT

情報技術とは

Information, Communication and Technology

(2) 図書館システム

今日の図書館システムの要件

業務システム + 利用者志向

(3) OPAC

図書館には本がある

利用者と資料と図書館を結ぶ

次世代 OPAC

Web サービス技術を活用し、多様な付加価値をもつ OPAC

ライバルは Amazon ?

表紙画像の付加

サジェスト、レコメンド機能、SNS、RSS 対応

個人用文献管理 洗練されたインターフェイス

クラスタリング、タグクラウド、ブラウジング支援

利用の観点からは「図書館所蔵」の資料に見える情報源は全て提供する

筑波大学附属図書館 <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/mytulips/>

(4) 情報機器

図書館で使える情報機器

電子掲示板

RSS

ブログ

SNS

Twitter

Ustream

3. 情報技術の進展と利用者の行動変容

日本国民の 70% がインターネットを使っている。

(1) デジタルネイティブ

A digital native is a person for whom digital technologies already existed when they were born, and hence has grown up with digital technology such as computers, the Internet, mobile phones and MP3s.

現在の学生は物心ついた時からインターネット、携帯電話、動画、電子情報源を用いた環境にいる、いわゆるデジタルネイティブである。

(2) デジタルイミгранト (移民)

A digital immigrant is an individual who grew up without digital technology and adopted it later.

成長してから、デジタル技術に習熟したものをデジタルイミгранト。

•ブログ、SNS、動画共有サイトのようなソーシャル・メディアやクラウドコンピューティングさらに Twitter、Ustream と次々に現れる情報通信技術を使いこなす若者を世代論と結びつけて多様な呼び名が存在する。

2000 年世代(millennials)、76 世代、86 世代、デジタルネイティブ第 1 世代/第 2 世代、ネオデジタルメィティブ...

(3)クイズ

デジタルネイティブの特性として が見つからないのはどれ？

- a. PC リテラシーは高い
- b. 書くのには PC が便利
- c. インターネット = PC である
- d. ノート PC は画面が小さくて不便
- e. テレビを話題にしなくなった
- f. 動画とは見るもの

(4)筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類での学生実態

a.教科「情報」の影響

Word Excel Power point HTML
情報倫理 著作権 ネット犯罪
プログラミング

b.ウィキペディアについて

c. Digital natives ?

携帯電話 _____が持っている
ブログ ほぼ_____が知っている IDを持っているのは_____%
mixi _____割が知っている IDを持っているのは_____%
Twitter _____割が知っている IDを持っているのは_____%
Facebook _____%が知っている IDを持っているのは_____%
iPhone を持っているのは____人

授業(ゼミ中)の Twitter 使用

d.図書館内での情報探索行動に関する一年生と図書館員の対照実験

リテラシー能力は概して_____い

4. 利用者は何を求めているのか？

有料と無料

新聞・雑誌記事

CiNii

国会会議録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp/>

マニフェスト/選挙公報収集

(7) 電子情報源の変容

電子ジャーナル

電子書籍

オープンアクセス

機関リポジトリ

5. ICT によって図書館サービスは

(1) 館のサービス

(2) 遠隔サービス

(3) 所蔵とアクセス

冊子体の購入

電子情報源のライセンス利用

(サーバに_____する権利にお金を払っている)

情報源の拡大

資料のデジタル化 国会図書館、国立公文書館、「電子図書館」...

(4) レファレンスサービス

国会図書館レファレンス協同データベース事業

(5) 図書館協力

5. まとめ

引き出しの多い図書館サービス 3)

参照

(1) 図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会 地域の情報ハブとしての図書館-課題解決型の図書館を目指して-.2005.

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401/all.pdf

(2) これからの図書館像 - 地域を支える情報拠点をめざして - (「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書) 2006.

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm

(3) 志智嘉九郎. レファレンス・ワーク. 東京, 赤石出版. 1962. 290p. (1984 日本図書館研究会から復刻)